

2023年度 ル・ソラリオン名和 事業計画

ル・ソラリオン名和

1. 施設理念

「ともに考え、ともによろこぶ暮らしの実現」

2. 施設方針・テーマ『地域に開かれた魅力ある事業所づくり』

- (1) 安心して心地よく暮らせるような思いやりのあるサービスを提供します。
- (2) 個々の暮らしやすさにつながる環境づくりを行います。
- (3) コンプライアンスを徹底し、健全な施設運営を実施します。
- (4) 在宅支援の充実を図り、高齢者にやさしい地域づくりの一翼を担います。
- (5) チームの一員として共に支えあい、働きやすい職場環境を構築します。

3. 実施事業

- | | |
|-------------------------------|---------|
| (1) 介護老人福祉施設 | 定員 70 名 |
| (2) ショートステイ（介護予防含む） | 定員 18 名 |
| (3) ケアハウス | 定員 15 名 |
| (4) 通所介護サービス | 定員 35 名 |
| ・ 大山町介護予防・日常生活総合事業（通所型サービス） | （定員に含む） |
| (5) 大山町介護予防・日常生活総合事業（元気アップ教室） | 定員 14 名 |
| ・ 介護認定非該当者対象事業（元気道場） | （定員に含む） |
| (6) 居宅介護支援センター | |
| (7) 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） | 定員 18 名 |

4. 重点目標

〔抱負・目標〕

時代の変遷とともに多様化する利用者ニーズをキャッチし、「在宅サービスによる生活支援の強化」と「施設サービスの改善」「働き方改革」を進めながら、魅力ある事業所づくりを行っていきます。

大山町の現状として予防の高齢者が増える一方で、施設利用希望者が減少しており、近々の経営面への影響が懸念されます。団塊の世代の方々が実現したい暮らしと現状のサービスに乖離はないか、利用者本人とともに考えて、サービスのブラッシュアップを図ります。

また、昨年度起こった新型コロナウイルス感染症クラスター発生の経験をもとに BCP と実際の体制が合致するように環境及び体制を整えていきます。

(1) 人財育成と職場定着

- ① 専門スキルの向上：web研修の活用し、効果的な研修体系を構築する。
- ② 次世代リーダーの育成：お互いが思いやれる職場づくり。リーダーと共にチーム力の向上を図る。
- ③ 業務改善による働き方改革：多角的視点で改善を行い、時間外労働を削減する。

(2) 利用者へのサービス提供（顧客満足・質の向上）

- ①記録の充実：モニタリングの強化により生活の質の向上を目指す。
 - ・記録のIT化による効率化を推進する。
 - ・記録の充実：利用者とのコミュニケーション記録をQOL向上につなげる。
- ②多職種連携で行う自立支援：生きる喜びを共に感じるケアを提供する。
 - ・チーム体制の強化：多職種の専門性を活かしたチーム体制の強化。
 - ・生活リハビリの導入：「自立支援～生きる喜び～」力が発揮できるくらしの実現。
 - ・アセスメントの検討：本人アセスメントの強化から個別ケアを展開する。
- ③断らない事業所：独居・低所得者等へ権利擁護の推進を通し困難事例に学ぶ。
 - ・地域・個々の利用者ニーズに応え、望む暮らしに向けた連携を図る。

(3) リスク対策（感染・安全・災害等）

- ①現場で想定されるリスク（事故・感染・苦情）の迅速な対応とサービス改善。
- ②災害リスク対策の確実な実施をする。
 - ・新型コロナウイルス発生時における業務継続計画(BCP)の見直し。
 - ・地震・火災・台風・大雪等に備えた具体的なネットワークづくり。
 - ・施設内・地元地域・関連施設との連携を行い、様々なパターンの訓練を行う。

(4) 施設・設備整備

- ①計画的な設備・備品点検・修繕管理と不具合時の即時対応を行う。
- ②ハード面のメンテナンスを強化し、衛生的環境を整える。

(5) 地域連携・社会貢献

- ①地域住民の介護予防や認知症の人を支える地域づくりの取組を実施する。
- ②コロナ禍でも安全につながる事ができる地域貢献活動の実施。
「クラブの創設」「オレンジガーデニング」「施設交流会」など(広報活動含)

(6) 経営管理

- ①新規申込者を増やす:「選ばれる事業所」を目指して事業所からの情報発信を行う。
- ②在宅利用者サービスの強化、介護保険各種加算を活かしたサービスの質の向上。
- ③収支予算の適正管理：質の向上と経営の安定の両輪に向けた取組を行う。

5. 新規事業 なし

2023年度 GH やまと 事業計画

グループホーム やまと

《グループホーム理念》

「住み慣れた地域で、出来る事を共に喜び合う

愛あふれるグループホーム」

テーマ『地域に開かれた魅力ある事業所づくり』

《グループホーム方針》

- (1) 認知症になっても安心して暮らせるように支援します。
- (2) 個々の暮らしやすさにつながる環境づくりを行います。
- (3) コンプライアンスを徹底し、健全な施設運営を実施します。
- (4) 高齢者にやさしい地域づくりの一翼を担います。
- (5) チームの一員として共に支えあい、働きやすい職場環境を構築します。

《抱負・重点目標》

1. グループホーム やまとは、利用者が共同生活を送る上で、その共同生活住居が自らの生活の場であると実感できるよう支援します。
2. 自らの役割を持つことにより、達成感や満足感を感じながら自信を取り戻せるサポートを行い、能力に応じた日常生活を営むことができるよう支援します。
3. 地域環境、制度の変化をキャッチし、サービスの改善を進めながら、ご利用者・地域住民に信頼される、魅力ある事業所づくりを行ってまいります。

(2) 人財育成と職場定着

- ① 専門スキルの向上：web研修の活用し、効果的な研修体系を構築する。
- ② 次世代リーダーの育成：お互いが思いやれる職場づくり。リーダーと共にチーム力の向上を図る。
- ③ 業務改善による働き方改革：多角的視点で改善を行い、時間外労働を削減する。

(2) 利用者へのサービス提供（顧客満足・質の向上）

- ①記録の充実：モニタリングの強化により生活の質の向上を目指す。
 - ・記録のIT化による効率化を推進する。
 - ・記録の充実：利用者とのコミュニケーション記録をQOL向上につなげる。
- ②多職種連携で行う自立支援：生きる喜びを共に感じるケアを提供する。
 - ・チーム体制の強化：多職種の専門性を活かしたチーム体制の強化。
 - ・生活リハビリの導入：「自立支援～生きる喜び～」力が発揮できるくらしの実現。
 - ・アセスメントの検討：本人アセスメントの強化から個別ケアを展開する。
- ③断らない事業所：独居・低所得者等へ権利擁護の推進を通し困難事例に学ぶ。
 - ・地域・個々の利用者ニーズに応え、望む暮らしに向けた連携を図る。

(3) リスク対策（感染・安全・災害等）

- ①現場で想定されるリスク（事故・感染・苦情）の迅速な対応とサービス改善。
- ②災害リスク対策の確実な実施をする。
 - ・地震・火災・台風・大雪等に備えた具体的なネットワークづくり。
 - ・施設内・地元地域・関連施設との連携を行い、様々なパターンの訓練を行う。

(4) 施設・設備整備

- ①計画的な設備・備品点検・修繕管理と不具合時の即時対応を行う。
- ②ハード面のメンテナンスを強化し、衛生的環境を整える。

(5) 地域連携・社会貢献

- ①地域住民の介護予防や認知症の人を支える地域づくりの取組を実施する。
- ②運営推進会議の活用方法の再構築を行う。
- ③コロナ禍でも安全につながるができる地域貢献活動の実施。

「クラブの創設」「オレンジガーデニング」「施設交流会」など(広報活動含)

(6) 経営管理

- ①新規申込者を増やす：「選ばれる事業所」を目指して事業所からの情報発信を行う。
- ②介護保険各種加算を活かしたサービスの質の向上。
- ③収支予算の適正管理：質の向上と経営の安定の両輪に向けた取組を行う。